



2018年5月1日

各 位

三重県保険医協会

運動の取り組みについて

3月15日、保団連中央要請行動が開催された。また、衆議院第2議員会館で「医師の働き方を考える」国会内集会被開催された。三重協会から鶴飼副会長が参加した。

保団連主催で行われた「医師の働き方を考える国会内集会」に参加した。全国から医師・歯科医師。事務局合わせて150人の参加であった。

冒頭住江保団連会長が「医師の増員・確保で働き方を変えていくのは診療報酬アップが基本」と挨拶、民進党、立憲民主党、共産党など10人の衆参国会議員が連帯、激励の挨拶をした。集会では、ミニ講演として、元埼玉済生会栗橋病院院長補佐で日本医学会連合「労働環境検討委員」の本田宏氏が「日本はOECD各国の中でも医師数が少なく、今の勤務医の過重な労働を解消するには、医師増員が必要」とデータを示しながら話された。

また、全国医師ユニオンの植山直人氏から「勤務医労働実態調査2017」から見える勤務医の働き方の現状と改善への道のり、大阪協会理事長高本英司氏から「開業医の24時間対応の現状」、愛知協会副理事長齊藤みち子氏から「保団連調査で女性医師・歯科医師の約3割が産前休暇ゼロ」、兵庫からは神戸など都市部でも病院小児科が消えていく現実を訴える報告があった。

国会でも「働き方改革」が議論される中、集会前後に県内・東海比例選出の衆参国会議員に医師の勤務環境改善と診療報酬の大幅な引き上げ、さらなる患者負担増中止などを要請した。議員本人にお会いし要請できたのは、岡田克也氏（民進）、中川正春氏（民進）、もとむら伸子氏（共産）の3人。

（三重県保険医協会副会長・鶴飼伸）

以 上